



◇ 今回は、LGBTをテーマとした課題研究活動の報告です。

日 時： 平成29年10月12日(木) 16:40~17:40
参加者： 関市市民協働課のLGBT担当の皆様、関高生7名

昨年8月、関市はLGBTフレンドリー宣言を発表し、性的マイノリティーの尊重を打ち出しました。関市は、多くの観光客が集まる「モネの池」に「誰でもトイレ」を設置したり、事実婚の方にも互助会からの結婚祝い金を出すなど取り組みをはじめています。

そうしたさまざまな取り組みについて、関市市民協働課のご担当の方々からうかがいました。市内でも、早川工業株式会社がいち早く就業規則を改定するなど、取り組みの輪が広がりつつあるそうです。

<http://www.city.seki.lg.jp/0000011041.html>

<http://jobrainbow.net/>

<http://divercity-expo.com/join/hykw>

「まずは知ることから」。関高校2年生のLGBT研究グループは、図書館を活用した校内での啓発活動を始めました。LGBTの書籍を紹介するコーナーを開設し、まずは自分たちから率先して読み、読書案内の文章を綴ってみました。活動はこれからも続きます。

今回の活動については、関市の広報誌（広報せき12月号）でも紹介される予定です。



生徒による図書紹介

杉野文野『ダブルハピネス』講談社文庫（2009）

この本は、体は女性で心は男性という性同一障害を抱えた杉野文野さんの自伝的エッセイです。私はこの本を、同性代の高校生や中学生、そして親の世代に読んでほしいです。読んだらきっと「LGBTの人は身近にいる」ということが分かると思うし、もっと理解したいと思えます。LGBTに興味のある人もない人も楽しめるお薦めの本です。（田中あきほ）

石川大我『ボクの彼氏はどこにいる？』講談社（2002）

この本はLGBTの当事者によって書かれています。だからLGBTの人が悩んでいることや、理解してほしいことが細かく書かれており、LGBTを身近に感じることができます。私はこの本を読んで、LGBTについて深く知ることができました。自分のまわりにもおかしくないんだと感じたので、これからどのような人と出会っても、平等に、偏見を持たずに接していきたいと思いました。（加藤夕季）

石川大我『ゲイのボクだから伝えたい「好き」の？（ハテナ）がわかる本』太郎次郎社エディタス（2011）

この本はレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーのひとつひとつについて、図説やグラフを多くはさむのでとても分かりやすく、読んでいて飽きない。また、著者の主観的な意見だけではなく、体験談や客観的な見解も書かれていて、より深く理解できる。Q&A方式の部分もあり、とても読みやすく深い知識が得られる。（石原有華）

室井舞花『恋の相手は女の子』岩波ジュニア新書（2016）

この本では、レズビアンである作者が自分の目線から女性を好きになることや、LGBTのことを広めていく活動を紹介しています。この本を読み、LGBTについて関心を持たし、LGBTがこれまで以上に重要な社会テーマとされていく中で、読むべき本だと思いました。（劔萌々香）

アレックス・ジーノ（島村浩子訳）『ジョージと秘密のメリッサ』偕成社（2016）

自らの制に疑問をもつトランスジェンダーの10歳の男の子と、その家族や友人たちとの出来事を描いた物語です。この本を読めば、LGBTの方と出会った時にどのような行動をとるべきなのか、自分なりの答えを見つけることができます。私は、当事者が安心してカミングアウトできるような暖かい環境や、周囲の人たちからのサポートの大切さ、そして、ありのままの自分を受け入れてくれる人がいることこそが、当事者にとって何よりも心強いものであることを学びました。（長尾衣花）

野島伸司『スヌスムリクの恋人』小学館文庫（2011）

この本は、LGBTについて、物語形式で書かれています。物語だったので感情が読み取りやすく、LGBTの方の気持ち、家族や友人の心情を考えるヒントとなりました。自分がLGBTの問題を考えるきっかけになったと思います。（古田希）

はたちさこ・藤井ひろみ・桂木祥子編著『LGBT サポートブック 学校・病院で必ず役立つ』保育社（2016）

Q&A方式で詳しい法律やデータを知ることができます。もちろん、基本的な情報も掲載されているので、LGBTについてこまかく知りたい人はおすすめです。私はこれを読んで具体的な当事者の悩みがわかり、知識が深まりました。（原亜由子）